**現代文学習アドバイス**

**１．問題の概要**

第1問は評論の複数文章、第2問は小説から出題されました。第2問では、語句の意味を問う問題が出題されず、また問7では新傾向として【資料】で本文と同時代の広告を掲示し、それを踏まえた【構想メモ】および【文章】とを組み合わせた問題が出題されました。

**２．根拠に基づいて選択肢を選ぶ練習をしよう**

まずはさまざまな文章に触れ、どんな内容でも読みこなせるように練習しましょう。また、選択肢を正確に読み、正解以外の選択肢の間違い箇所を指摘できるようにしてください。本文の根拠を把握したうえで確実に選択肢を見極められる力を身につけることが重要です。

**３．多様な文章の問題演習を重ねよう**

共通テストでは複数の文章などを組み合わせた問題が今後も出題されることが予想されます。まったく練習をしていなければ間違えたり戸惑ったりしてしまうかもしれません。授業や問題集などを利用して複数の題材を比較し、関連づける問題にも取り組んでおいてください。多様な問題に取り組んでおけば、新傾向の問題が出題された時にも冷静に対応できるようになります。

**古文学習アドバイス**

**１．問題の概要**

平安時代後期の歌論書と作者を同じとする私家集の一節から出題されました。問4は連歌（短連歌）や和歌修辞について理解を深めさせる問題で、2022年度のように教師と生徒の会話文形式で出題されました。

**２．学習した単語・文法の知識をもとに、文章を読む訓練をしよう**

共通テスト対策としては、単語をたくさん覚えること、古典文法を一通り覚えることが、まずは大切になってきます。そのうえで普段から古文を読むときに、その文章の中に覚えた単語や文法事項が出てきたら、それらがどのように使われているかに気をつけましょう。そのためには、文章を正確に現代語訳する練習をするとよいでしょう。そして、問題演習を行うときには、共通テストの傾向に沿った演習問題を、時間を計って、1題20分程度で解く練習をしましょう。

**漢文学習アドバイス**

**１．問題の概要**

予想問題と模擬答案という形式の2つの文章から出題され、問7はそれら2つの文章を関連付けて読解する問題でした。全体として、2022年度に比べて基礎知識を踏まえたうえで文章の読解力を必要とする問題が増加しました。

**２．読解力養成のために、句形・重要語の習得に努めよう**

共通テストは複数の文章を関連づけている問題となっていますが、十分な読解力があれば解答することができます。したがって、対策も単独の文章からの出題と変わりなく、句形・重要語・頻出表現等に習熟し、読解力を養うという地道な作業が最も効果的です。また、いったん学習した文章は機会を見つけて、繰り返し声に出して読んでみるのもよいでしょう。音読は読解力の養成や書き下し文の錬成等に極めて有効です。

**2024年度共通テスト　問題構成と設問別分析**

**問題構成**

| **大問** | **分野** | **問数** | **マーク数** | **出典** |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 1 | 論理的文章 | 6 | 12 | 渡辺裕　『サウンドとメディアの文化資源学ー境界線上の音楽』 |
| 2 | 文学的文章 | 7 | 10 | 牧田真有子　「桟橋」 資料　太田省吾　「自然と工作ー現在的断章」 |
| 3 | 古文 | 4 | 8 | 「車中雪」（『草縁集』所収） |
| 4 | 漢文 | 6 | 8 | 詩　杜牧　「華清宮」 資料I～III　蔡正孫　『詩林広記』 資料IV　程大昌　『考古編』 |
| 合計 | |  | 38 |  |

**設問別分析**

**第1問**

問1の漢字の問題は、昨年・一昨年に出題された漢字の意味を問う設問が出題されず、傍線部と同じ漢字を選ぶ従来型の設問だけが出題された。問2～問4は本文中の傍線部について本文に基づいた理解を問う設問である。問5は本文の構成と展開について問う設問。問6は本文を読んだ生徒が「自身の経験」に基づいて書いた文章について問うという、従来本試験では見られなかった設問が出題された。(i）は文章の傍線部を具体的な表現に修正するもの。（ii）は加筆する一文を挿入する箇所を選ぶもの。（iii）は最終段落に書き加える結論を選ぶもの。いずれも本文との関連が直接問われたものではなく、生徒の書いた文章の内容や文脈を正確に把握する必要がある。

**第2問**

問1（語句の意味を問う知識問題）は、比較的易しい出題。問2以降の読解問題もおおむね素直な出題だが、問5・問6は解答を選ぶのに迷った受験生も少なくなかったと思われる。

**第3問**

問1は、短い語句の解釈問題で、基本的な古語の意味や文脈理解が問われた。問2は、語句と表現に関する説明問題で、共通テスト初年度から続く新傾向の形式が定着したと思われる。昨年同様、文法色が濃くなっていた。問3は、本文中の二首の和歌について、掛詞や和歌の内容が問われた。問4は、一昨年・昨年と続いた教師と生徒の話し合いの場面での空欄補充の問題でなく、本文中の「桂」という言葉に注目して本文を解説した現代語の文章の空欄を三箇所埋める問題であった。空欄Iは、本文の12行目の和歌の下の句の内容を答える問い、空欄IIは、「桂」が「月」を連想させる言葉であることを前提に本文20～22行目に書かれている情景を答える問い、空欄IIIは、25行目の「桂風を引き歩く」の解説を読んで、23～26行目に描かれている主人公の人間性を答える問いであった。

**第4問**

玄宗が楊貴妃のために茘枝を献上させた故事にまつわる杜牧の【詩】と、【詩】に関連する4つの文章からなる【資料】が本文として提示され、「玄宗の楊貴妃への情愛」が主題であった。昨年よりも漢文の基礎知識だけで正解できる問題が増加した。問1は漢詩の押韻と形式の問題、問2は語句の意味の問題で、どちらも知識で正解できる。問3は返り点の付け方と書き下し文の問題で、「有」「所」の用法がポイントであった。問4の解釈の問題は、【資料】と（注）の説明を参考に詩句の意味をつかむ必要がある。問5の【資料】の内容を問う問題と問6の【詩】の鑑賞の問題は、【詩】と【資料】の記述と各選択肢の説明を慎重に照合させることが求められるが、選択肢が紛らわしく、容易には正解できない。

**平均点の推移**

| **年度** | **2024年度** | **2023年度** | **2022年度** | **2021年度** | **2020年度** |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 平均点 | 116.50 | 105.74 | 110.26 | 117.51 | 119.33 |

* 2021年度は大学入学共通テスト第1日程の平均点
* 2020年度は大学入試センター試験の平均点